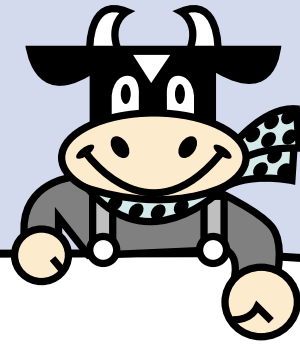




# ワンポイント・アドバイス



## 創傷性第二胃腹膜炎

皆さんは、食欲不振の治療時に異物による胃炎とか、第四胃変位の術後治療の時に、第二胃が癒着していたと言われた事はありませんか？

異物による胃炎は、昔から知られていますが、現在でも診療でよくある疾病の一つです。今回は、異物による胃炎について説明します。

### 原因

飼料中に混入していたり、舐めたりして摂取した異物が第二胃の粘膜や胃壁を傷つけたりまた刺ったりして炎症を起こし、悪化すると横隔膜や腹膜、他の臓器と癒着又は膿瘍を形成したりして、急性および慢性の食欲不振を発症します。中には、刺入した異物が胃壁、横隔膜心膜を貫き心臓に刺さり創傷性心膜炎を起こすものまでいます。

### 症状

急性型ノ大体はこの型で食欲不振又は廃絶し、反芻や第一胃運動の著しい減退ないし停止を起こし背弯姿勢をとり泌乳量は著しく減少する。  
慢性型ノ慢性に経過し症状も多様で多

慢性の食欲不振を発症します。中には、刺入した異物が胃壁、横隔膜心膜を貫き心臓に刺さり創傷性心膜炎を起こすものまでいます。

粘膜に損傷を与えるものとしては、尖体では釘、鉄線、針等の金属や非金属の硬くて鋭利なものがあります、また純体として小石、砂、金属等があります。

くは食欲不振と第一胃運動の低下を回復し、慢性の消化不良が持続し削瘦する。また鼓脹を繰り返したりする。

写真1は、金属異物が第二胃壁に刺さり炎症から横隔膜と癒着し、第二胃の運動の低下をおこし慢性の食欲不振を呈し著しく削瘦していました(帯広畜産大学のX線車による腹部の透視画像)。

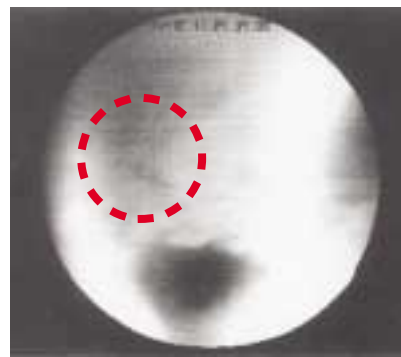


写真1

写真2は、第二胃と横隔膜との間で膿瘍の形成と、それに併発した創傷性心膜炎を起こし死亡した牛のものです。



写真2

より。

2、外科的治療として第一胃または第四胃からアプローチし、第二胃内の異物を除去する。

### 予防

- 1、創傷性疾患又は四変の手術牛に癒着があった。
  - 2、牛舎や育成舎、バンガーサイロの新築や改築を行った。
  - 3、有刺鉄線使用している場所に牛を放している。
  - 4、今まで使用していなくて、その放牧地に初めて牛を放牧する。
- 以上の条件に合う農家は、全頭にマグネット投与をすべきです。
- マグネットの投与でこの病気は確実に減らす事が出来ます。またこの様な疾病

### 治療

1、保存療法としてマグネットを投与し抗生物質の全身投与を行う(慢性化した症例には効果は期待できない)。また、フラットホーム療法を行う。前肢の下に20〜40cmの台を置き牛の前肢を乗せ暫くそのままにしておく(図1・牛の臨床

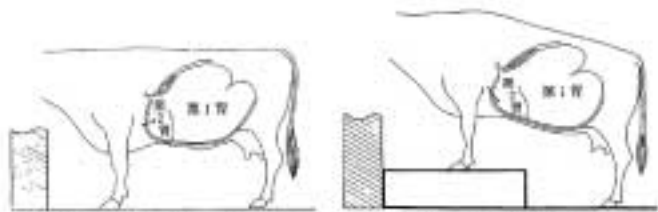


図1 プラットホーム療法。右(フラットホーム)の上に牛を立たせ後肢を高く保持する。

図1